



トランテックス

Corporate Social Responsibility Report 2014

[CSRレポート]



CONTENTS

トップメッセージ	01	職場環境	08	省エネルギー活動	17
会社概要	02	健康づくり	09	リサイクル・省資源	18
商品紹介	03	労使関係	09	調 達	19
お客様		安全衛生	10	社会貢献活動	20
お役立ち活動	04	環 境		コンプライアンス	21
品質マネジメント	05	環境マネジメント	11	コーポレートガバナンス ...	22
アフターサービス	06	環境会計	14		
従業員		環境パフォーマンスデータ	15		
人材育成	07	環境目標と実績	16		

トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

谷川 丹

成長ステージから改革ステージへ

私たちトランテックスはコンプライアンス経営を基盤に、製造現場での地道な改善や調達ラインでの原価低減等の努力を重ね、ここ数年、順調に売上・利益を計上してまいりました。そして更なる発展と中長期的な視点でトップ架装メーカーを目指すべく、開発部門・営業部門・製造部門を中心に各部門で全社に新しい思想を取り入れた各種業務改革を進めています。

真の総合架装メーカーになるために

2014年度は主力の大型ドライウイングの機能性の充実、及び約100kgの軽量化を主としたフルモデルチェンジを行い、市場投入を開始しました。得意分野である大型・中型ドライウイングを中心にお客様のご支持をいただけている一方、冷凍車や小型車分野では、まだまだお客様にご満足いただける商品をお届けできていないのが現状ではないかと考えており、品質・価格はもちろん、お客様が求める機能性を満たす商品開発を進めていきたいと考えております。また、完成車分野につきましても、シャシメーカーである日野自動車様と最適車両に向けた共同開発を進めております。これらの活動を通じて、全ての生産品目でお客様にご満足いただける真の総合架装メーカーを目指していきます。

品質をトップレベルで維持

おかげさまで2013年度も日野自動車様より優れた出荷品質基準であるダイヤモンド賞の評価をいただき、同

時にダイヤモンド賞を3年連続受賞したことでプラチナ賞もいただくことができました。製造部門を中心とした各部門での品質維持・向上の努力が継続できているとの結果でもあり、お客様にはこれまで以上に自信をもって当社商品をご紹介できるものと考えております。プラチナ賞の受賞を励みに、これからもトップレベルで品質の維持・向上を図っていきます。

営業力向上に向けて

当社では営業部門を中心にお役立ち活動を引き続き行っております。営業担当者からは年間5,000件以上のお客様からの情報・要望を収集し、少しでもお客様のお役に立てる情報提供や活動支援をさせていただいております。2013年度はお客様満足度が高いと評価されている企業様を訪問させていただき、お客様の現場で直接先進的なサービスに触れたり、取り組み事例をご紹介いただいたりしました。これからもこのような経験を積み重ね、お客様によりよいご提案、サービスのご提供につなげていきたいと考えております。

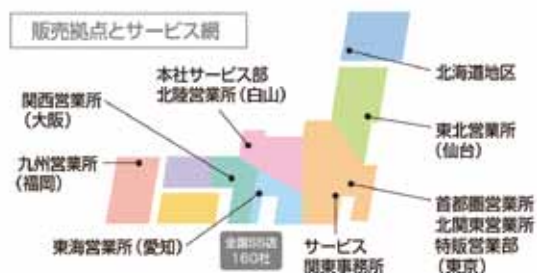
お客様のよきパートナーとして

当社ではお客様のよきパートナーであり続けるため、引き続き品質向上に向けた活動、環境に配慮した商品開発、そしてお役立ち活動等を継続・発展させ、お客様のあらゆるご期待に対し、感動していただける商品・サービスでお応じていきたいと考えておりますので今後ともご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

株式会社 トランテックス

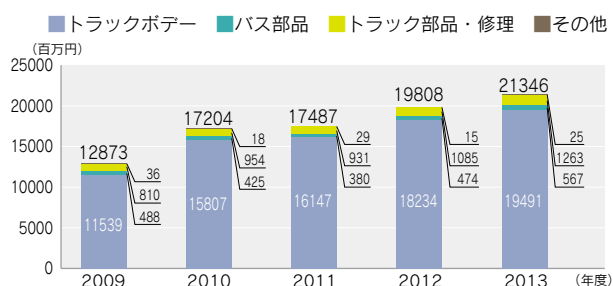
- 所在地 石川県白山市徳丸町670番地
- 設立 昭和5年3月
- 創立 平成14年10月
- 資本金 11億円（平成26年3月31日現在）
- 従業員数 894名（平成26年3月31日）
- 製品 トラックボデー、特殊車両



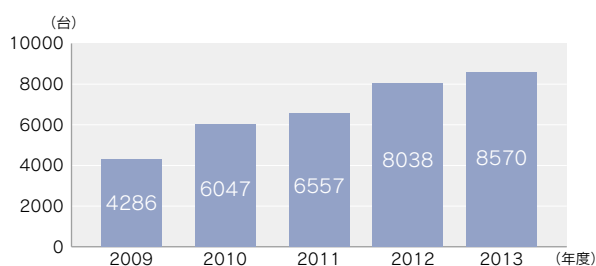
本社・工場全景

- 敷地面積 103,289㎡
- 延床面積 50,011㎡

売上高推移



トラックボデー生産台数推移



主要製品



ウイングシリーズ



ハンシシリーズ



ブロック煽シリーズ

トランテックス基本理念

基本理念は会社の使命と基本方針からなり、私たちトランテックスが社会の中で存在する意義、社会に対して果たすべき責任や方針を明確にしております。

会社使命

- 地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する
- お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする

基本方針

- 人と地球環境に配慮し、社会とのつながりを大切にする
- 常に技術革新に努め、お客様のお役に立つ商品やサービスを提供する
- 変化を的確に捉え、社会との調和を図り、グローバルな視点で事業展開を行う
- 社員の能力を最大限に発揮し、プロ集団としての総合力を高める

商品紹介

■ 新型ドライウイング

現行より20mm内寸高をアップし、国内トップクラスの庫内容積を確保するとともに、部品断面拡大による板厚見直しや、組立て方法の見直しで部品点数を削減し100kgの軽量化と剛性アップを両立しました。また、羽根ロアレール外観や煽内観のデザインを工夫し、キャンバスシートは耐久性と防汚性を向上させ、中柱ロックは片手で操作可能な補助ロックを採用することで安全対策を図りました。

羽根ロアレール外観



羽根ロアレール断面を拡大し、側圧強度を上げ、デザインを煽とマッチングさせました。

キャンバスシート



新技術により耐久性と防汚性を向上。

煽



部品点数を削減し、大幅な軽量化を実現。

煽内観



リブ形状化により荷物による多少の傷も目立ちにくい構造。

中柱ロック



中柱ロックに補助ロックを採用し、積荷の側圧への対応を強化しました。

中間ロック



中間ロックを煽に完全埋め込みし、庫内の突出やラッシングレールの分断をなくしました。

中柱



部品形状を見直し、軽量化を実現。



■ 低燃費型の大型冷凍バン

従来の大型冷凍バンの後門枠のサイド及びアッパーにテーパー（角度）を付けて、空気の流れを良くする断面構造を採用した低燃費型の大型冷凍バンを開発し、従来構造比で5%の燃費改善が見込まれています。また、この大型冷凍バンはパレットの18本積みが可能であったり、ドッグシェルター使用時の冷気漏れ対策をとるなど、お客様に次世代の冷凍輸送車両としてご紹介させていただいております。



標準的な構造

荷台後方の空気の流れが悪く空気抵抗が大きい。



空力改善構造

荷台後方の空気の流れを改善し空気抵抗を低減。



お客様

お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行なっています。

2013年度は5000件を超える貴重のご要望・お悩み事等をお客様からいただくことができました。それらのお客様の声は商品開発に活かすことはもちろん、お客様の問題解決のために全社一丸となってお対応させていただきました。

様々なお悩み事の中には弊社がご案内することができる12種類の講習会メニュー「お役立ちメニュー」で解決することができるものがあり、2013年度は「テールゲート操作」10回、「ウイング操作時の注意点」8回、「ボデーのメンテナンス」5回、「バックアイカメラの死角」7回、「荷役作業KYT」2回など42回の講習会を開催させていただきました。

どの講習会もお客様に喜んでいただいております。少しでもお客様の安心・安全な運送作業の確立に貢献できたのではないかと考えております。引き続きお客様の声に真摯に向き合い、お客様の課題解決にご協力できるように努めてまいります。

【トランテックスお役立ちメニュー一覧】

項 目	内 容
冷凍バンの取扱いについて	予冷や庫内換気、日常点検等冷凍バンをお使いになる時の基本的な注意点をご説明します。
冷凍バンでの品質管理について	冷凍バンに荷物を積む時の注意点及び荷台のコンディションの保つためのポイントをご説明します。
冷凍ボデーのメンテナンス	ボデー各部の点検要領や各部シールの補修方法など現車で実際に点検しながらご説明します。
冷凍車の商品知識	構造や仕様、商談のポイントをご説明します。
ウイングの取扱いについて	開閉操作や荷物の積み方など、ウイングをお使いになる時の基本的な注意点をご説明します。
ウイングへの安全な荷積みについて	ウイング構造の特徴を紹介したうえで、構造的な要因から必要となる荷物を積み込む際の注意点をご説明します。
ウイングボデーのメンテナンス	各部の点検要領や油圧装置のメンテナンス方法を現車で実際に点検しながらご説明します。
ロールボックス輸送の注意点	種々の固定方法による荷台内でのロールボックス（ワゴン）の動きをビデオで紹介し、荷台への影響をご説明します。
車輛後退時の安全確認講習	バックミラーの死角やバックアイカメラのモニター映像の特性についてご説明します。
テールゲートの安全操作	事故事例を紹介しながら、操作する際の注意点、ゲート装着車の特性を説明します。また、ゲートを操作しながら、操作及び点検方法をご説明します。
荷卸し作業 KYT	特に荷卸し作業をテーマとしてKYT基礎4ラウンド法によるグループ討議を行ないます。
TTS安全管理手法のご紹介	防災意識向上策や設備の点検方法など当社製造部で実施している様々な安全管理手法をご紹介します。



ウイング車の構造や荷積みの注意点、日常点検についてをテーマにした講習会の様子。「荷積みの注意点・固定方法について勉強になった」と感謝の言葉をいただきました。

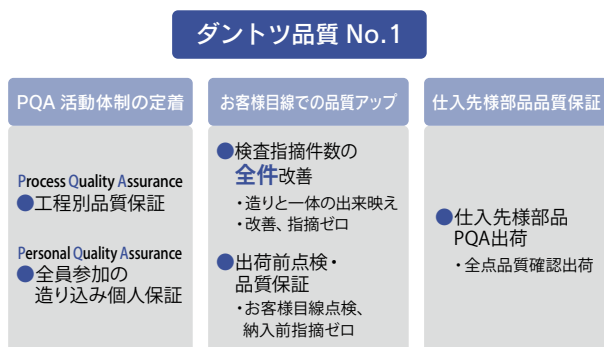


バックアイカメラ講習会の様子。車両事故撲滅の一助となるように、バックアイカメラにも死角があることをお伝えさせていただきました。

品質マネジメント

ダントツ品質NO.1

当社では①PQA活動体制の定着②お客様目線での品質アップ③仕入先様部品質保証の3点を品質活動の柱として活動しています。



3年連続でダイヤモンド賞を受賞いたしました

日野自動車株式会社様の出荷品質基準を満たした会社に送られるダイヤモンド賞をトランテックスは2013年度の活動に対して受賞いたしました。今回の受賞は2011年度、2012年度に引き続きの受賞となり、ダイヤモンド賞と同時に3年連続受賞会社が対象となるプラチナ賞も受賞いたしました。これらの受賞に満足することなく、引き続き受賞できるように品質管理を徹底していきます。



授賞式の様子



エントランスに飾られている受賞盾と表彰状

品質管理の最前線

前日の生産状況を振り返り、対応課題の明確化等を行う稼働会議を製造部門・生産管理部門・品質保証部門・開発部門の責任者を集めて、毎日開催しています。その会議の中では品質状況についても報告され、即座に対応方針や対応部署等が決定され、改善に向けた取り組みが開始されます。また、月1回、全役員が参加する品質会議も開催され、重要品質問題についての対応状況等についての意見交換も実施されています。



毎朝の稼働会議では活発な意見交換がされています。

アフターサービス

サービス部門ではお客様に商品をお届けした後も、お客様の身近な存在として、全国の販売会社様、SS店様と連携しながら、補給部品の円滑な提供とすばやく正確な修理を実施させていただくことで、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。

2013年度からはお客様の車両に発生する不具合を事前に発見し、より車両を長くご使用いただきたいとの思いから、新車納入時に営業担当者とともにサービス担当者も同行訪問させていただいて、お客様と密接な関係を築くことで、これまで以上にボデーについての情報交換をさせていただきたいと考えております。また、新車納入後3ヶ月を経過した際にも巡回訪問の一環として、ボデーの定期点検をさせていただき、初期段階での不具合によりお客様にご迷惑をかけることがないようにさせていただいております。これからも定期的な訪問活動を継続し、お客様に安心・満足をお届けできるように努力してまいります。



定期訪問を通じて、お客様のより身近な存在を目指していきます。



巡回訪問で定期点検も行っています。

従業員

人材育成

各種研修・教育の充実で環境の変化に即応できる人材を育成していきます

当社では新入社員・中途入社社員研修はもちろん、製造部門での階層別教育・技能教育、その他各種研修・教育を通じて、各従業員の能力・スキルアップを図り、経済環境の変化・気候変動に伴う環境規制の強化等の環境変化に即応できる人材の育成を目指していきます。

2013年度はサービス部門強化のため、サービス部門研修を開催いたしました。成長市場ではない架装業界で、当社の存在価値を高めるために今後、益々重要性が高まるのがアフターサービス分野ではないかと考えております。受身になりがちなアフターサービスにおいて、いかに他社と違った特色を出し、お客様の信頼を勝ち得ていくのかについて、部門内で共通理解をもち、今後の方針を定めることができました。今後も引き続き、お客様のご期待に沿えるものづくり・営業活動・サービス活動を行なえる人材育成を進めていきます。



サービス部門研修では、グループワークを通してスキルアップを図りました。

職場環境

融雪設備の設置

雪の降る時期、工場屋根に積もった雪が工場周囲に落ち、作業スペースや通路を塞いでしまうということが頻繁に発生していました。そこで2013年度は構内で一番大きい工場であるウイング組立工場の屋根に融雪装置を設置し、屋根雪が積もらないようにし、積雪時の作業能率低下を防止しました。また、同様に構内のトラックヤードの床面にも融雪設備を導入し、車両移動時の時間ロスの低減を図りました。



ウイング組立工場屋根に設置された融雪装置

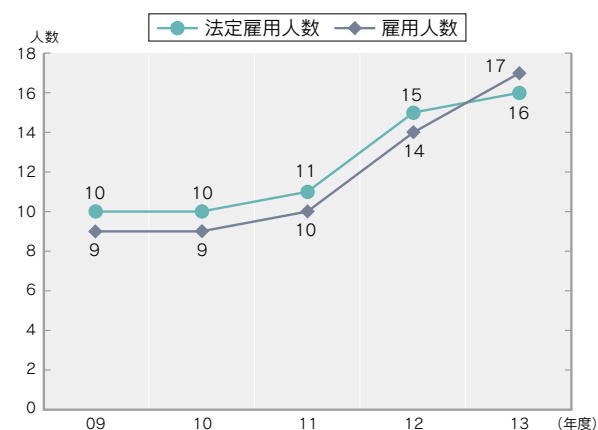


トラックヤードに設置された融雪装置

障害者雇用

2013年度は、製造部門での障害者受入体制を整え、新たに2名の方に入社いただき、障害者法定雇用人数16名に対し、17名の水準まで引き上げることができました。まだまだ障害者の方に働いていただくには解決すべき課題はありますが、実施できることから取り組み、障害者雇用率の維持・向上とともに、誰もが働きやすい職場環境整備を進めていきたいと考えております。

【障害者雇用人数の推移】



健康づくり

メンタルヘルス

当社では産業医と連携を取りながら、メンタルヘルスへの対応を行なっています。メンタルヘルスは各人が行なうセルフケアが基本となりますが、従来は長時間労働者へのフォローとして産業医面談を実施していました。しかしながら、増産対応による時間外労働対応により、これまでのようなきめ細かな対応にも限界が生じてきたため、ラインケアとして各職場の状況を一番把握している職場長にメンタルケアの一翼を担っていただく体制にしました。今後はセルフケア、ラインケア、産業保健スタッフによるケアの三本柱で、メンタル不調の従業員の未然防止、早期職場復帰を図りたいと思っています。



各職場長にラインケアのやり方・注意点について説明を行いました。

KEY PERSON



産業医

北岡 政美

診療所では4年前から診察医、今年4月から産業医と診察医を兼務しています。前任産業医と会社との協同でメンタルヘルス対策が進み、早期発見、早期の復職の方がほとんどで、社内ではメンタルヘルスに対する理解が広がっていました。トランテックスの上司、同僚の皆様の良いバランスでの対応、手厚い復職支援には大変感謝しています。産業医は週2回の出務です。いつも一緒に働き、様子をみてくださる社員の皆様のおかげでメンタルヘルス対策は進まなかったし、その力がトランテックスの素晴らしい文化として継承されることを願っています。次は個人指導を中心とした健康診断のフォローから、会社としての健康管理体制構築

の第一歩を踏み出せればと考えております。

診療所では、相談者の秘密厳守、ご本人と職場、会社の負担を最小限にできるアドバイスを心がけ、気軽に相談していただける診療所を目指します。会社が元気になる、そんなお手伝いができればと思っています。

労使関係

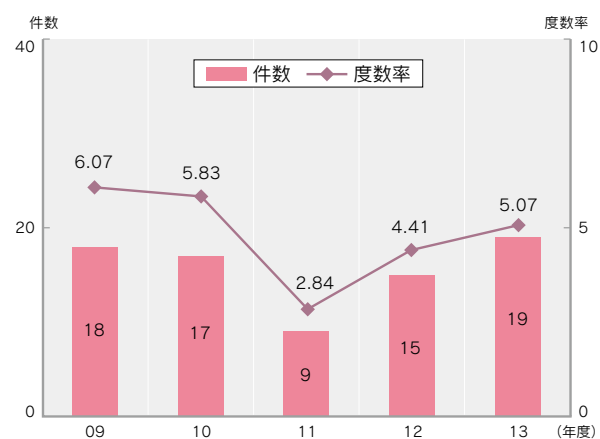
トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて職場環境は年々改善されています。

安全衛生

労働災害の低減に向けて

2013年度からは各職場内の重大災害に繋がる可能性がある危険箇所を全員参加で徹底的に洗い出し、短期間で改善を行なう活動（危険撲滅やりきり活動）を開始しました。また、活動状況については見える化を行うことで、一人ひとりの安全意識と安全感度の向上を目指しています。また毎週実施している安全パトロールを継続し、パトロールで発見された危険な作業・危険な設備への対策を行い、そして継続的な活動を通じて従業員一人ひとりの意識改革を進めることで、災害ゼロ職場の実現を目指していきます。

【災害発生件数と度数率】



各職場で安全改善活動の見える化を行っています。



毎週安全パトロールを実施し、危険ポイントの洗い出しを行っています。

熱中症防止に向けて

夏場の暑さによる熱中症防止が当社でも課題となっており、未然防止のための対応策を実施しております。まず、夏服の素材を速乾性素材に変更し、発汗による体温調節が行ない易くなるとともに、着心地の改善にもつながりました。また、各職場には冷水器の設置を行なっていましたが、熱中症の予防には水分だけではなくミネラルの補給を同時に行なう必要があるため、イオン飲料水の粉末も支給し、各職場で適宜、給水時に補給していただくことにしました。地道に対策を積み重ね、熱中症発生の抑制につなげていきます。



熱中症対策についての講演会を開催しました。

環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは、地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

●基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先様等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

●行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- ・工場・事業所の立地における環境への配慮
- ・地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- ・排出物を極力出さない生産活動
- ・省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外において、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

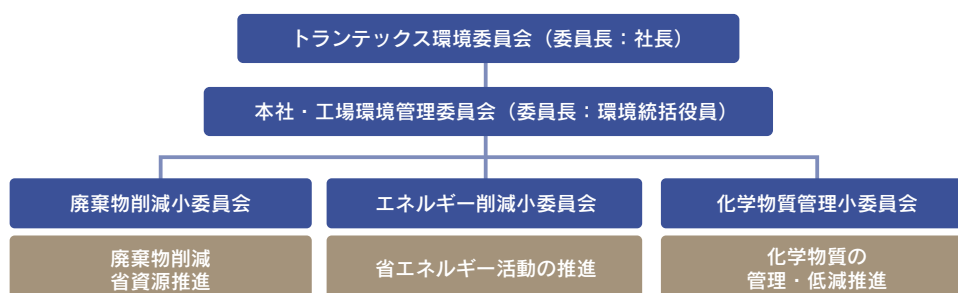
社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

マネジメント推進体制

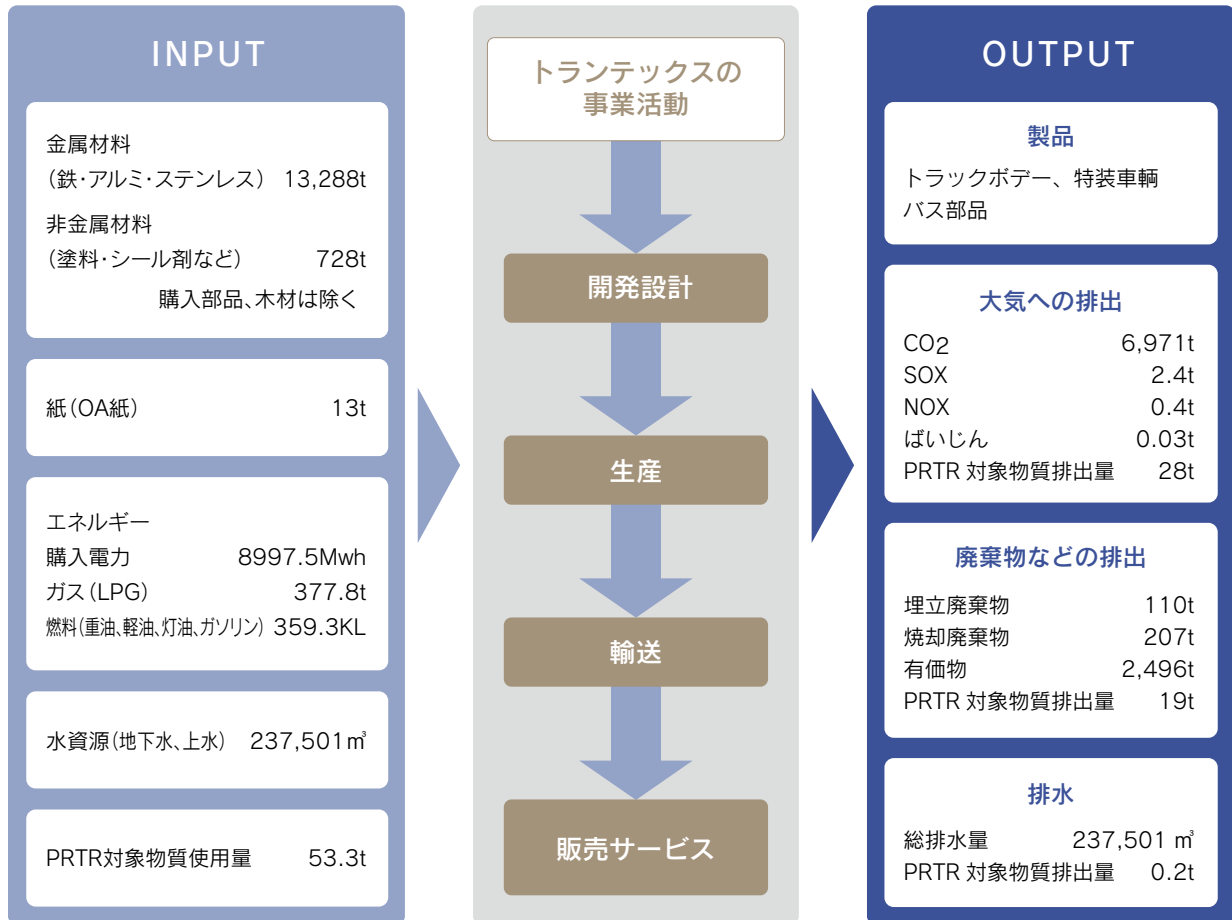
トランテックスは、環境保全を推進するため、全社的組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と3つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行なっております。また、3つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・VOCなどの化学物質低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしています。



事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

【事業活動における2013年度の投入資源と環境への排出】



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
 SOX : 硫黄酸化物 NOX : 窒素酸化物

環境リスク低減活動

環境リスク未然防止のため、毎月1回環境パトロールを実施しております。各職での管理状況が改善されてきておりパトロール指摘件数は減少傾向にあり、今後も指摘がない職場作りを進めていきます。

また、パトロールとは別に敷地外漏洩事故等が発生するリスクを事前に想定し、改善を進めています。2013年度は2012年度中に抽出した環境リスク14件のうち全てに対して対策を完了いたしました。今後も残リスクに対して管理・対策と取るとともに、新たなリスクが発生していないかリスク抽出を継続実施していきます。

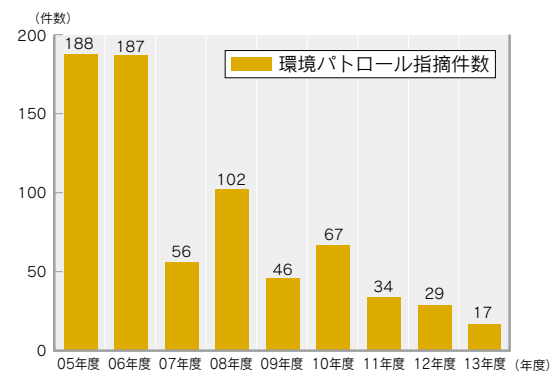


構内従業員駐車場付近に降る雨水の敷地外放流口手前に油水分離槽を設置し、雨水の水質管理をできるようにしました。



軽油タンク破損時の軽油漏洩を防ぐため、タンク内の軽油全量を受けられるオイルパンを設置しました。

【環境パトロール指摘件数の推移】



05年・06年をピークにして指摘件数は減少しており、13年度は17件となりました。



工場内はもちろん、工場周辺も環境パトロールを行っています。

環境会計

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、当社の基準にて算出しました。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

【2013年度の環境コストの集計結果】

〔単位：百万円〕

項 目		11年度		12年度		12年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	8.8	6.1	10.3	6.1	8.1	8.3
	地球環境保全コスト	11.3	－	9.1	－	17.4	－
	資源循環コスト	－	5.3	－	58.0	2.3	65.2
上・下流コスト	製品解体マニュアルの作成及び公開	－	0.0	－	－	－	－
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境負荷の監視・測定等	－	5.0	－	5.7	－	5.3
研究開発コスト	製品の環境負荷物質削減、リサイクル性向上	－	－	－	10.2	－	－
社会活動コスト	地域懇談会、会社周辺清掃等	0.1	－	－	－	－	－
環境損傷コスト	土壌・地下水の浄化	－	－	－	－	－	－
合 計		20.2	61.4	19.4	80.0	27.8	78.8
		81.6		99.4		106.6	

【2013年度の経済効果の集計結果】

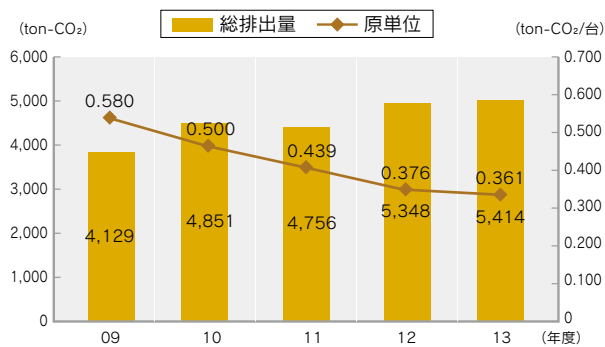
〔単位：百万円（－は十万円未満）〕

項 目	11年度	12年度	13年度
リサイクルによる事業収入	70.4	71.9	87.0
省エネルギーによるエネルギー費の節減	2.32	3.7	3.7
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	－	－	7.3

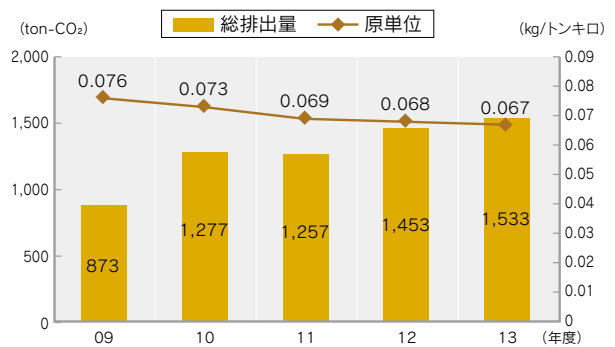
環境パフォーマンスデータ

当社の2013年度も含めた近年の環境パフォーマンスデータは次の通りです。生産量の増加に伴い、排出総量はほとんどの項目で増加となりましたが、生産台数当たりの総排出量を示す原単位実績は、排出物・VOC以外の項目で前年度実績を上回ることができました。今後も環境負荷を減らせるように、引き続き環境パフォーマンス改善に向けて、取り組んでまいります。

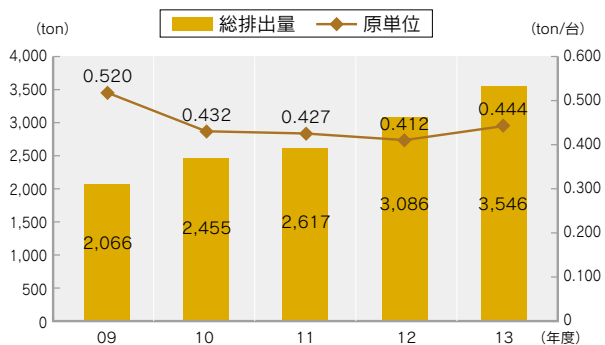
【生産CO₂】



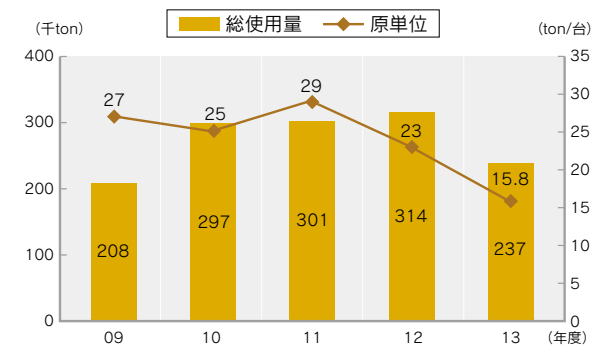
【物流CO₂】



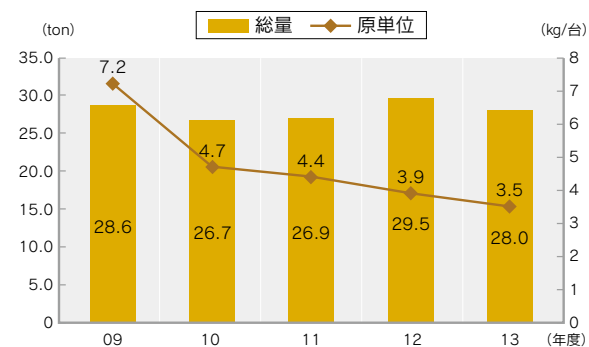
【排出物】



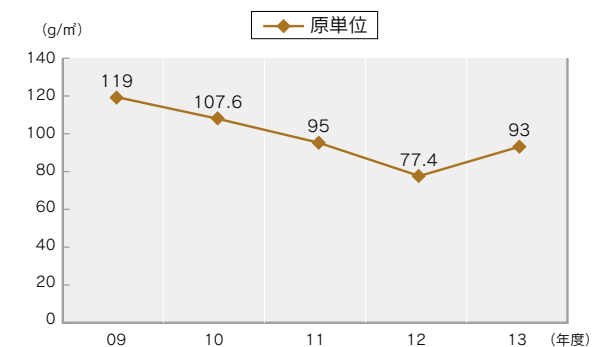
【水使用量】



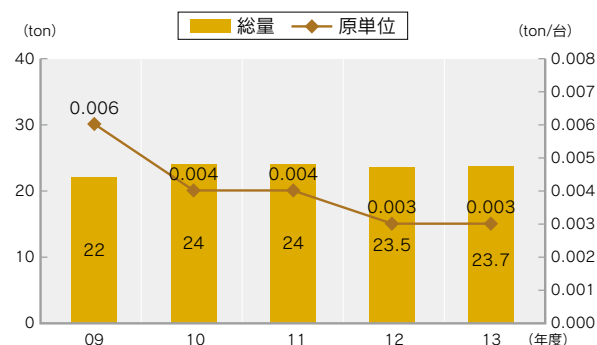
【PRTR】※1



【VOC】※2



【物流梱包包装資材】



※1

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出登録制度

※2

VOC (Volatile Organic Compounds) : 揮発性有機化合物

環境目標と実績

項目		取り組み内容	2013年度環境目標	2013年度実績
環境経営	ビジネスパートナーと連携した環境活動を推進する		グループ会社との環境情報の共有化	子会社環境データを取得
	環境教育活動の充実と推進を図る		自覚教育・専門教育と啓蒙活動の実施	全部署での教育実施
			営業員への環境教育実施	集合研修時に営業員へ教育を実施
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーションの充実を図る		環境情報の発信	CSRレポート発行完了
			近隣住民とのコミュニケーション実施	近隣町内会の役員の方を交えて懇談会を開催
	異常苦情ゼロ・リスクの最小化を図る		環境重要施設の日常点検強化	環境管理責任者（環境管理者）による定期確認を1回/週実施
			リスク低減活動の推進	対象リスクへの対策完了
環境保全と自然共生社会の構築	生産	PRTR対象物質の低減	原単位目標 PRTR削減 4.6kg/台	原単位実績 3.9kg/台
		VOCの低減	原単位目標 VOC低減 79 g/m ³ VOC低減塗料への切り替え	原単位実績 93 g/m ³ ソリッド塗料導入検討
	社会との連携	自然共生社会構築に資する社会貢献活動を推進する	社外ボランティア活動への参加	「クリーンビーチいしかわ」に社員およびその家族で参加
			継続的な工場周辺ボランティア清掃の実施と全社員の参加	全社員が清掃活動に参加
低炭素社会の構築	生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減	生産CO ₂ の削減	原単位目標 0.37ton/台以下 省エネ対応器械への更新 設備更新の実施	原単位実績 0.36CO ₂ -ton/台 蛍光灯のLED化および水銀灯のLVD化 コンプレッサーのインバータ化 バッテリーフォークリフトへの更新
	物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	物流CO ₂ の低減	原単位目標 0.0679kg/トンキロ以下 トレーラーの活用	原単位実績 0.0673kg/トンキロ ボデー運搬時のトレーラー活用
循環型社会の構築	生産・物流における排出物の低減と資源の有効利用	排出物の低減	原単位目標 409kg/台以下 梱包材の削減と再利用	原単位実績 444kg/台 ダンボール梱包納入品の簡素化とサービス部品発送用梱包材への転用
		最終処分量	最終処分量目標 3%以下 リサイクル分別の徹底と処理方法変更	最終処分量実績 3.3% 分別の細分化と埋立処理品目のリサイクル化
		物流梱包材の低減	原単位目標 0.00313kg/台 小物部品発送にメール便の活用 梱包材の簡素化	原単位実績 0.00297kg/台 メール便の積極的な活用 梱包材を出来るだけ簡素する
		水使用量の低減	原単位目標 21.6ton/台 埋設配管からの漏水量低減	原単位実績 15.8ton/台 埋設配管の漏水ヶ所の修繕対応

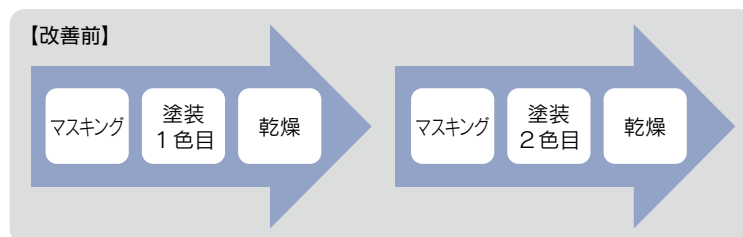
省エネルギー活動

ポデー塗装工程での多色同時塗装

従来は塗装カラー一色に対して「マスキング工程→塗装工程→乾燥工程」の一連作業を実施していたため、塗装カラーが複数になると、カラーの数に応じて塗装作業が増加していました。結果として作業時間はもちろんのこと、塗装工程に関わる電力およびLPGの使用量も増加してしまうという状況が生じていました。このような状況に対して、マスキング工程での改善をおこない、デザインにもよりますが、2色または3色のポデー塗装を1回で終わらせることができるようになり、エネルギー使用量を大幅に削減することができました。



改善前は1色ごとにマスキングをするため、多くの時間がかかっていました。



改善後は1回のマスキングで多色塗装ができるようになり、作業時間も使用エネルギーも大幅に削減できています。



艤装工程・塗装工程に水切り装置設置

艤装工程と塗装工程では、雨天時に雨で車両が濡れていると作業者がエアブローにより水滴を取り除く付加作業が発生していたため、ラインの停滞が発生していました。この問題を解決するため、工程内に車両を受け入れる際、自動化された水切り装置でエアブローをすることにしました。水きり装置導入により、エアブロー時間が大幅に短縮され、作業性が大幅に改善されました。



艤装工程に設置された水切り装置

リサイクル・省資源

塩ビ配管のリサイクル

床下工程で排出されていた塩ビ配管は、含有する成分の影響からサマールリサイクルや焼却処理の実施が不可能で、埋立処理を行ってきました。2013年度は塩ビ配管の単体分別により、マテリアルリサイクルを実施するルートを確認し、有償売却化を実現しました。年間売却数量は会社全体に比べれば僅かではありますが、今後、有償リサイクルアイテムを増やし、リサイクル比率を高め、処理費用の低減に努めていきたいと考えております。

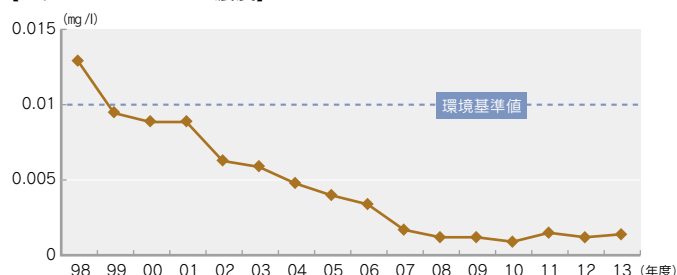


一定サイズ以下の塩ビ管端材は社内での再利用が難しいため、社外有償リサイクル化を実現することで資源の有効利用を図りました。

地下水浄化への取り組み

当社では、過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃致しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認され、1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めています。土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。

【テトラクロロエチレン濃度】



調 達

基本的な考え方

当社は当社の製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入先様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入先様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供と品質アップのための仕入先様による品質改善事例発表会を行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の年度方針・調達方針をお伝えさせていただき、また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績をあげていただきました仕入先様を表彰させていただいております。



仕入先総会には多くの仕入先様にご出席いただきました。



表彰式の様子

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、

1. ミニマムな価格
2. 最高の品質
3. タイムリーな納期

を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

社会貢献活動

工場周辺清掃活動

本社工場周辺道路を中心に、毎月1回清掃活動を行なっています。朝7時半から8時までの30分程度の時間での実施ですが、毎回、多くの従業員が参加しており、近隣住民の方にも活動を認知していただける程になりました。量は減ってきてはいるものの、残念ながらゴミが全く無くなることはないため、今後も継続的にゴミゼロ地域を目指して、活動していきたいと思います。



海岸清掃活動

2013年度も石川県海岸全域の清掃活動「クリーンビーチいしかわ in はくさん」に参加させていただきました。回を追うごとに参加者数が増加しており、天気にも恵まれたおかげもあり休日の早朝ながら、社員の家族も含め80名を超える参加者となりました。

今後もこのような地域イベントへの積極的な参加を通じて、地域美化に貢献するとともに、社員の社会貢献意識の醸成を図ってまいります。



会社見学の受入れ

小学生・高校生・各種団体様に会社見学でお越しいただきました。小学生は社会科学習での「ものづくり」を実際に学ぶ機会として、高校生は製造業で働くという職業観を養う機会として、また、各種団体様は様々な学習目的の一環としてご利用いただいております。

これからもご来社いただく方々のご一助となれますよう、積極的に取り組んでまいります。



コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題と考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成のに向けた取組みを継続的に実施することで、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指していきます。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

私たちは、この「トランテックス行動指針」を日々の仕事の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしていきます。



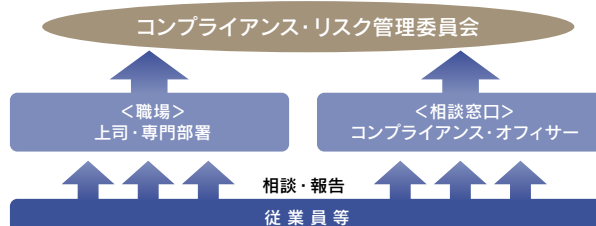
コンプライアンス教育

役員・管理職を対象としたコンプライアンスに関する講演会を開催し、コンプライアンスに取り組む必要性やコンプライアンス違反の予防と発生時の対応、そして昨今、様々なメディアで話題になる労働時間管理やパワーハラスメントについて改めて理解を深めました。今後も継続してコンプライアンス教育を実施し、コンプライアンス違反が発生しない、職場作りを行っていきます。

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先として、コンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。社員等は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、外部の法律事務所への相談窓口も設けられています。

【参考：従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題と考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役会・会計監査人などの法定機関の設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、社外取締役を1名選任しております。

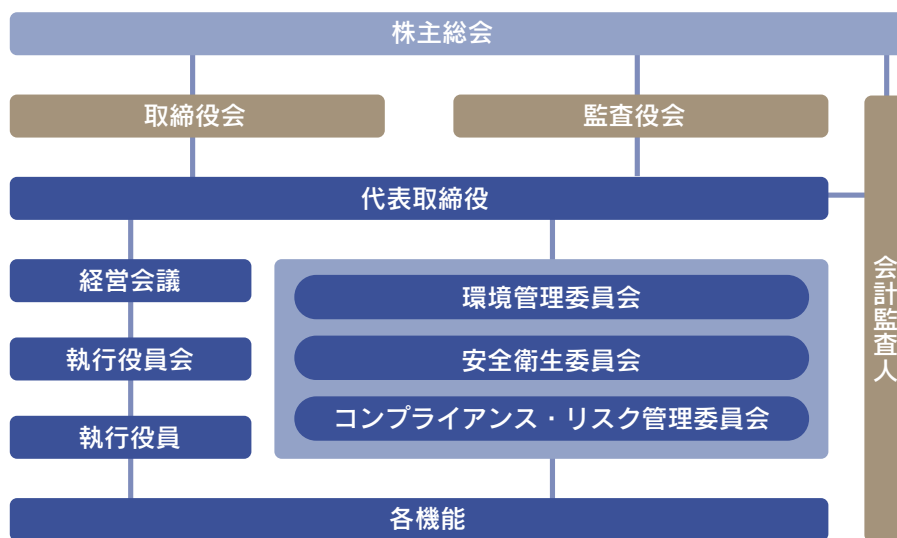
監査役会

取締役会の監督機能をより強化するため、常勤監査役以外に2名の社外監査役を選任しております。

会計監査人

2013年度はあらた監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様にご社の活動を深く理解していただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2013年度（2013年4月～2014年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン（2012年度版）」を参考にし、編集しています。



Corporate Social Responsibility Report 2014

本報告書の内容や当社の環境への取り組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2014年 10月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

